

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **環境理工学部**

部局長名： **木村 邦生**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	
<p>1 学部将来構想の検討 学部のミッション、強み、特色などについて点検・評価し、学部改組も含め将来構想について検討する。</p> <p>2 勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校訪問、高大連携事業の推進および学生募集支援企画(「夢ナビ」)のミニ講義やオープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催など、積極的な広報活動を展開し、学部アドミッションポリシーに合った受験生確保に努める。</p> <p>3 教育の質向上への取組 ピアレビューの実施拡大や教員研修会の継続開催等のFD活動、Q-cumシステムによる達成度評価やカリキュラム点検により教育の質向上を図る。 また、JABEE認定継続の取組などにより、学生の出口での質保証に努める。</p> <p>4 実践型環境教育の充実 本学部教育の特徴の一つである実践型環境教育科目(「実践型水辺環境学及び演習ⅠⅡ」、「ESD実践演習」等)の充実を図ることにより、社会から求められている環境人材の育成に努める。 また、講義・実習等を全て英語で行うタイ国カセサート大学との実践型環境教育プログラム「GP特別コース」の実施により、グローバル人材の育成を図る。</p> <p>5 教育の成果 進学率を引き上げるための方策を検討し、可能な取組から実施する。</p> <p>6 学生キャリア支援の充実 全学の若手研究者キャリア支援センターの協力を得ながらキャリア教育の充実を図る。 また、本学部キャリアサポート室と各学科教員の連携のもと、学生へのきめ細やかなキャリア支援活動を展開する。</p>	<p>1 学部将来構想の検討 海外の大学における興味ある先進的な環境教育プログラムに関して調査を行い、学部ミッションの再定義のための情報収集を行った。今年度の結果を基に継続検討を行う。</p> <p>2 勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校訪問については中国・四国地区および兵庫県を中心に75校を訪問した。また、高大連携事業については12件の出張講義、12校の大学訪問受入を行った。学生募集支援企画(「夢ナビ」)のミニ講義は35講義開講するとともに、高校生対象の講義「夢ナビライブ」へ教員1人を派遣したほか、学部・学科の特徴を紹介する「1分動画」による広報活動も継続して実施した。さらに、オープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催など、積極的に本学部の広報に努めた。 これらの取組により、一般入試(前期日程)の志願倍率は2.7倍であり、目標とする客観的指標を超えることができた。</p> <p>3 教育の質向上への取組 ピアレビュー、教員研修会等のFD活動を実施するとともに、Q-cumシステムによるDPポイントの分析を行いカリキュラム点検を行った。さらに、H28年度から開始する60分4学期制に向けたカリキュラム改正を行うなど、教育の質向上に資する取り組みを実施した。 また、JABEE認定継続審査を2学科が受け、2学科とも継続が認定された。各学科において、卒業認定試験や学生の達成度自己点検を実施するなど、学生の出口での質保証に取り組んだ。卒業認定試験については、学部全体で実施する方向で検討を開始した。また、英語力の保証を図るため、平成28年度入学生から卒業論文履修資格にTOEICスコア400点を課すこととした。</p> <p>4 実践型環境教育の充実 「実践型水辺環境学及び演習Ⅰ、Ⅱ」、「ESD実践演習」により環境スペシャリストの育成を図った。 また「GP特別コース」では、タイ国カセサート大学に7人を派遣するとともに、本学には7人を受け入れ、グローバルな環境人材の育成を図った。平成28年度以降において「GP特別コース」に台湾の大学も新たに加える計画が進行しており、さらなる拡充が期待される。</p> <p>5 教育の成果 進学率を引き上げるための方策を検討した際、一部の講座で実施している取り組み(大学院入試における成績優秀学生の筆記試験免除、英語試験にTOEIC成績を利用)を他講座にも拡大することなどが提案された。即時導入については慎重な意見が出されたため、進学率向上に対する効果やその他の方策について継続的に検討することとなった。なお、今年度の進学率は49.7%であり、前年度の45.7%よりわずかではあるが、上昇した。</p> <p>6 学生キャリア支援の充実 必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路について見通しを持って学生生活が送れるようキャリア教育の充実を図るとともに、本学部キャリアサポート室と各学科就職担当教員が連携し、きめ細かなキャリア支援を行った。平成27年度就職状況は、就職希望者77人の内、76人が内定しており(98.7%、2月末現在)、キャリア支援の成果が現れている。 また就職希望者77人のうち、国家・地方公務員には39人が内定している。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<p>志願倍率：一般入試(前期日程) 2.5倍 就職率：95%以上(現状維持を目標)</p>	
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	
<p>1 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導するとともに、効率的な情報発信などを通して研究成果を広く社会に還元する。</p>	<p>1. 大学院と連携して、卒業論文の作成等について、質の高い課題研究を指導することに努めた。また、本学部教員の教育・研究活動状況を広報するため、環境理工学部研究報告には、著書、原著論文、総説、研究受賞等、博士論文指導などについて全教員の業績のほかに、卒業論文のリストも載せ、本学部研究報告を電子データにより発刊し、本学学術成果リポジトリHPにも掲載した。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	
<p>1 オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出張講義、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力、グローバルサイエンスキャンパスへの科目提供を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。</p> <p>2 公開講座等を通じて地域住民への貢献を行う。</p> <p>3 教員免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。</p> <p>4 前述の実践型環境教育の実施においては、地域行政機関やNPOと連携し、地域社会への貢献を果たすとともに、タイ国との国際交流を図る。</p>	<p>1 オープンキャンパスでは666人の参加者があり、研究室見学等を通じた丁寧な説明を行った。また、保護者説明会を同時に開催(94名参加)し、学部の説明に加えて個別相談を実施した。更には、前述の学部独自の高校訪問の他、教員12人の高等学校への講師派遣、12校の高等学校の大学訪問受入を行い高大連携を図った。また、スーパーサイエンス校への事業協力等により、地域の高等学校との連携を深めた。</p> <p>2 今年度も公開講座を継続実施することにより、環境学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。</p> <p>3 免許状更新講習の講義を本年度も8講座開講し、教員の環境教育を中心とした知識向上に貢献することができた。</p> <p>4 前述の実践型環境教育の実施により、岡山市環境保全課やNPO法人と協力して地域貢献を果たすとともに、タイ国カセサート大学及び中国大学生訪日団との交流により国際貢献についても大いにその役割を果たすことができた。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	

## 【総括記述欄】

※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

教育、研究、社会貢献の3領域について、目標の達成状況は良好であったと評価している。教育領域における受験生の確保について、一般入試(前期日程)の志願者倍率は2.7倍であり、ここ4年間は2.5倍以上を維持できている。これは、これまでの高校訪問などの広報活動、夢ナビ企画による各種広報などの総合的な成果とも評価できるが、今後に向けて、今年度の分析を行うとともに、本学部の認知度をさらに高めるための方策についても引き続き検討する必要がある。

さらに、「学生キャリア教育の充実」に関しても、就職率は良好であり、当初の目標は達成できたと考えている。これにはキャリアサポート室の貢献が大であるが、就職支援/学生支援については今後とも同室と各学科とが連携してその充実を図ってきたい。

実践型教育やJABEE認定継続も本学部の特徴の一つである。実践型教育については、関連科目を通して環境スペシャリストの育成を図った。「GP特別コース」では、平成28年度以降において湾の大学も新たに加える計画が進行しており、さらなる拡充が期待される。また、環境ものづくりの分野で企業と連携した新しい課題解決型海外インターンシップを計画しており、次年度での立ち上げに向けた作業を開始した。海外派遣を通じた学生のグローバル化に貢献できる。JABEEに関しては、平成27年度にプログラムの受審を行い、継続が認定された。外部評価の意見等を参考にしながら今後とも継続的な改善を図る必要がある。